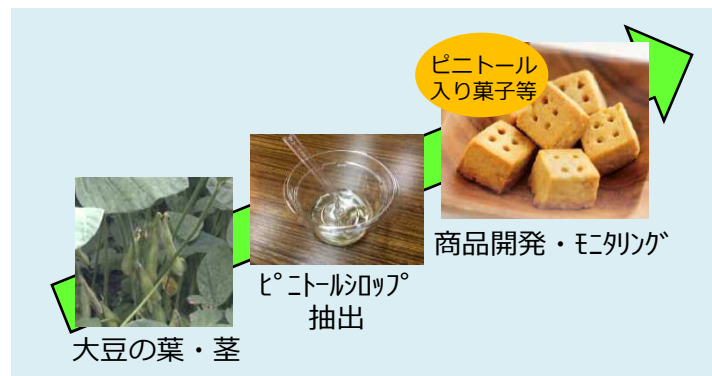


「農林漁業・食」を中心とした オール十勝による地域産業振興の取組

フードバレーとたち推進協議会（北海道十勝地域）

事業者プロフィール

所在地：事務局・帯広市産業連携室
 代表者：米沢則寿(帯広市長)
 構成団体数：42団体（十勝管内全19市町村、関係団体）
 事業の特徴：地域の食と農林漁業を柱に、地域産業施策を推進



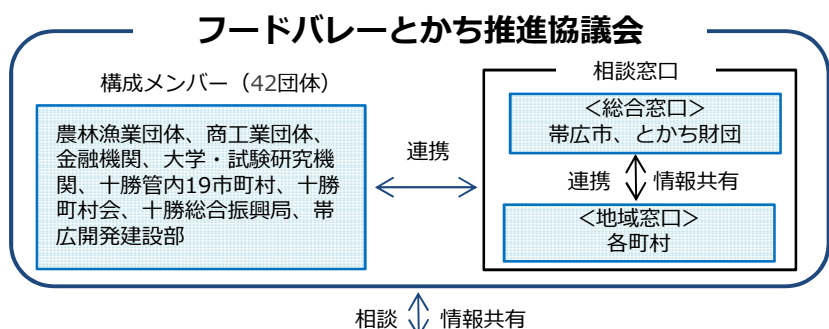
1 6次産業化への経緯・概要

- 北海道十勝地方は、食料自給率約1,132%を誇る大食料生産基地であるが、その大部分が加工されずに本州などの消費地へ流通している。
- この地域資源である「農林漁業、食」を活かして地域産業振興を図るため、H23年7月、オール十勝で「フードバレーとたち推進協議会」を設立。
- 十勝の魅力売り込み、食の価値を創出し、農林漁業の成長産業化を図り、十勝型フードシステムの構築に向け、道外や海外との十勝食材のマッチング等による高付加価値化や地域の事業拡大に繋がる人材育成等に取り組む。

2 活用した支援施策

- 6次産業化ネットワーク活動交付金整備事業（地域タイプ）（H27）
（加工機械への補助、実施主体:フジッコ株）

《事業体制図》



フードバレーとたちプレイヤーズ（農林漁業者、企業、団体等）

3 生じた課題と対応方法

- 農林水産物、加工品の付加価値向上
 →取組の切り口として、平成27年3月、「機能性食品」に着目し、食品製造大手フジッコ株と包括連携協定を締結し、大豆ピニトールシロップの抽出実証、及び地域の食品加工事業者とのマッチング等により、配合食品の開発に取り組んだ。
- 事業創出のための仕組みづくり
 →十勝の事業者、起業予定者と全国の革新的経営者との交流により、地域の発展に資する新事業創出を図る産学官金連携事業「とたち・イノベーション・プログラム」を実施し、新たな事業シーズの誕生、事業化を進めている。

4 今後の展望

- 地元企業や包括連携協定企業等との日常的な交流、共同研究や互いの資源、機能の活用により、地域産業の振興を図る。

- 「食」と「農林漁業」を柱とした取組の環境作りを推進
- 3つの展開方策で十勝型フードシステムを構築

農林漁業を成長産業にする
 食の価値を創出する
 十勝の魅力売り込む

3つの展開方策に基づき様々な取組を実施

- ・フジッコ(株)、(株)明治との連携で商品開発
- ・十勝の未来を担う人材の育成
- ・とたち・イノベーション・プログラムの実施
- ・フードバレーとたちロゴマークの開発、普及
- ・十勝バイオマス産業都市構想の推進 など

「アジアにおける食と農林漁業の集積拠点」、
 「自主自立の地域経済の確立」を目指す



▲十勝の高校生が食品事業者等の協力で「大豆ピニトール」配合した春雨入りカップスープ「ぶはっと。」を2種（豆乳スンドゥブ味、中華しょうゆ味）を開発。H29年10月29日、「2017フードバレーとからマラソン」会場にて数量限定で配付。

十勝の枝豆の葉・茎を原料とした、機能性成分「大豆ピニトール」を活用した商品開発




▲H28年度、十勝の高校生が「大豆ピニトール」配合菓子「P-CUBE」を開発。イベントにて披露し、嗜好性等のモニタリング調査を実施。

包括連携協定で得られた研究成果を地域の加工業者の商品に活用することにより、十勝の食の付加価値向上を目指しています。



▲H29年度、十勝の菓子店の協力で「大豆ピニトール」配合の菓子を製造し、高齢者に対する嗜好性等のモニタリング調査を実施。

PICK UP!



フードバレーとからのロゴマーク

【コンセプトは“おいしい十勝を食べる”】

- ・豊かに広がる実りの大地をイメージした、黄色の“皿”の上にいる北海道。北海道十勝地方の位置を“スプーン”ですくうことで、「おいしい十勝の“食”を食べる」ことをカタチにしました。



とから・イノベーション・プログラム

- ・創造的なビジネスモデルで注目されている全国の革新的経営者（火種）と、意欲のある十勝の事業者や起業予定者との知的混血・コラボレーションによる化学反応で、地域資源を活用した地域の稼ぐ力を呼び起こす。
- ・H27年から開始されており、各種セッションを通じて、新しい事業シーズを生み出し、起業創業の促進を目指す。

【過去4年の結果】
事業構想38件（うち会社設立7件）

取組に関するお問合せ

フードバレーとから推進協議会
事務局 帯広市産業連携室内
住所：〒080-8670
帯広市西5条南7丁目1番地
TEL：0155-65-4163
URL：<http://www.foodvalley-tokachi.com/>